



岡本 榮三郎

- 一、能勢町のまちづくりについて
- 二、交通環境のシステム整備について
- 三、能勢町の今後の農業政策について

能勢町のまちづくりについて

問 平成22年度末に廃止が決定しております宿野の大阪府立総合青少年野外活動センターが、他の市町等に売却されることのないよう、能勢町の「総合公園」として、能勢町の将来の発展のために、若い人たちが、家族連れで来て、賑わうような公園にすれば、まちの活性化に大きな役割を果たすと思いますが、町長の所見をお聞かせします。

答 現在、大阪府より廃止後の施設のあり方について、相談を受けている。議員ご指摘の能勢町の総合公園的なことだけについていいいますと、管理経費が高くなる、けれどもこの野外活動センターが他の所有者に渡るといふことは、私は大変忍びないものですので、能勢町が何らかの形でお受けをいたし、あそこを有効に使うような状況にしていきたいということを考えております。

交通環境のシステム整備について  
問 今後、能勢町の少子

化と若者離れを防ぎ、お年寄りの方々に安心をしていただくためにも、また、活力ある町づくりをするためにも、能勢町に鉄道もしくは、国道を利用してモノレールをひくことが出来ないか！ 長期的であれ将来、夢と希望の展望を持って夢の実現につながるまちづくりをしたいと思いますが、町長の考えを、お聞かせしたい。

答 今、電車、モノレールの構想については、現在はございません。しかし、こういう構想を描くことが本来の、私は政治であるろうと思えます。交通網の整備は、地域の活性化には、重要なものと認識しております。新名神が2016年に開通をいたしました。能勢町も周りに高速道路なり、鉄道もあるというところは、環境的には大変いい。その一つぐらいいは、将来的に能勢町に、ひけたらなあとは強く思っております。よろこびます。

今後の農業政策について  
問 能勢町は現在、高齢化率が25.4%ですが、今

後少子化と、若者離れが進めば、後継者難の状況が心配です。行政が先頭に立って、若者が跡を継げることのできる、産業的な循環型農業政策とか、農産物を通して全生産者が町の発展と活性化のために力を注いでいける政策は考えられないか。6月24日に、「改正農地法」が公布されたが、法人の自由な農業参入に、「農地利用集積円滑化事業」を今後どのように取り組もうとされているのか。

答 本町におきましては、人口減少、高齢化の進展も事実ですが、深刻な状況ではないと考えている。町の発展、活性化を図る農業政策について、今後物産センター等、販売体制の維持、充実に取り組みむとともに農業者自身が考え、実践していくために必要な支援策を講じていきたい。「農地利用集積円滑化事業」については、本町にとっては、地権者の中で有効に利用されており、事業実施の必要性は低いというふう

に考えております。

### 一般質問



山本 光晴

- 一、「伝統芸能の継承」について
- 二、「人財バンク設立」について

「伝統芸能の継承」について

問 長谷のおんだ、天王のキツネがえり、野間、山辺の祭り、獅子舞などの伝統芸能、伝承を映像として記録するべきと思うが。

答 記録に残すことは教育的に重要なことであるので、財政的な面もあるが、前向きに今後の検討課題として取り組んでいく。

問 伝統芸能に必要な用具などの整備について、文化庁の補助事業もあるが、町としての財政補助はいいかがか。

答 文化庁の文化再興事業があり、13年度より各地域でこの制度を利用している。町として直接関与していないが、情報提供や書類の取り次ぎを行っている。区への振興交付金の活用もできる。

「人財バンク設立」について

問 浄るり音頭を小学校の体育祭で実施している学校もあるが、全校で継承を図るべきでは。

答 岐尼小では浄るり音頭に取り組んでおり、歌垣小では新浄るり音頭を行っている。亥の子を教材にしている学校もある。可能なところで取り組んでいく。

「人財バンク設立」について

問 住民の福祉、介護などを地域による助け合いで解決するために、地域の人材を発掘し、登録し、活動の場を提供することが重要である。人財バンクの設立を提案する。

答 町として情報の収集に努めていくが、NPO法人の取り組みがいいのか検討していく。



山辺獅子舞